

若手医師の教育により和歌山~~県~~全体の感染症 診療のレベルアップを～地道に勝る王道なし

和歌山県立医科大学 救急集中治療医学講座 宮本恭兵
和歌山県立医科大学 感染制御部 中西町代
和歌山県立医科大学 感染制御部 赤松啓一郎



勉強会風景。みんなやる気をもって参加してくれています

抗菌薬が効かない細菌「薬剤耐性菌」は全世界でどんどん増加しており大きな問題となっています。薬剤耐性菌は日本にとっての国家的問題であり、国をあげての対策がとられています。対策の軸となる抗菌薬の適正使用では「必要な抗菌薬をしっかり使う」だけでなく「**必要ない抗菌薬はきっぱりやめる**」という考えが強調されています。そのためにも当院感染制御部では抗菌薬を長期に使用している患者さんや血液培養が陽性となった患者さんを対象として抗菌薬適正使用のラウンドをおこなっています。一方で患者さんを直接担当する医師一人一人の感染症診療に対する理解も同様に重要です。

「必要な抗菌薬」と「必要でない抗菌薬」と書くのは簡単ですが、この2つを区別することはとても難しく、医師国家試験に合格したからといってすぐにできるようになるものではありません。私自身も働き始めたばかりの頃は医学部を卒業するまでに習得した感染症に関する知識では実際の臨床には**全く太刀打ちできないことを痛感**しました。

そこで、初期臨床研修にあたっている若手医師を対象として少しでも感染症診療に関する知識をつけてもらうことを目的とし、感染症勉強会を開催することとしました。勉強会は主に**感染制御部に所属する集中治療医師と薬剤師が連携**しておこなっており、血液培養採取法といった実際的なものから抗菌薬使用の考え方といった総論的なものを含んでいます。臨床研修の必修科となっている救急研修中の医師を対象として少人数で開催し、院内感染対策講習会の出席として認めるなど出席してもらいやすい環境作りにも取り組んでいます。約2ヶ月に1回おこなっており、この8月で3年目となり受講人数は50人を超えました。

地道ではありますが和歌山県唯一の**大学病院ですべての若手医師**を対象とした勉強会を続けることでその効果が波及し、ゆくゆくは和歌山県全体の感染症診療のレベルアップにつながってくれればと思っています。